2020年(令和2年)3月1日(日曜日)　第 379 号

わがまち

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション　あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net　<発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356　常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

各種地図調整・印刷／地理情報システム
立体地図・地図模型・地図パネル・地図掛け軸
オンデマンドデジタル印刷・大判ポスター出力
株式会社 アルプス出版社
〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目15番18号
オフィスサンナゴヤ 6F
TEL 052-931-1009 FAX 052-932-1312
http://www.alpspublishing.co.jp/

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職
―自分ドラマつくろう―(107)　岡 田 清 治

■プロフィール
著者：岡 田 清 治（おかだ・せいじ）
1942年生まれ　ジャーナリスト（編集プロダクション・NET108代表）
著書に『高野山開創千二百年 いっぱんさん行状記』『心の遺言』
『あなたは社員の全能力を引き出せますか！』『リヨンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を下記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX: 0569-34-7971　メール:takamitsu@akai-shinbunten.net

【写真】暖冬で梅も早咲き？（著者撮影）

姪の就職 2

次からつぎへマイクを握る老若男女。とくにお祝いの歌でもない。それぞれがお得意の歌を歌っている。グループ以外の人は聞いていない。しかしみんな喜んでいる風に見える。宴が盛り上がってきた。

「おーい、四時に集合だ」

「わかった」

隣保の人たちは、一度、引き出物を持って自宅に帰り、再び、二次会の会場になっているN君の実家にやってくる。

「熊本は阿蘇山をはじめすべて大きい。例えば荒尾梨、ぶどうの巨峰、八代の晩白柚（ばんぺいゆ）という具合にです」

「そうですたい」

酒の酔いの勢いに任せて、「ところで男の持ち物もやはり大きいでっか？」と聞いてみた。すると新郎の父親は顔を赤めながらも胸を張った。

「もちろんですたい」

「やはりそうですか」

「いやね、熊本空港の近くにある弓削（ゆげ）神社を知っていますか」

「いや、知りません…が、あれですか」

「ご神体が巨大な男根なんです。あれを見ると熊本の男衆はすごいと秘かに敬意を払っていたのです」

「もともと夫婦円満、子孫繁栄の神社ですが、地元にいても知らない人も多いですよ」

「最近では浮気封じの神社に変身していると聞きますが…」

「そうです。男根や女の性器にクギを打ち付けて奉納している」

「そうですか。神社も時代とともに変わるんですね」

「まあ、そういうことですかね」

このまま長居していては失礼になると、真三夫婦はお礼を言って退散した。

人吉の公園で物思いにふけっていたが、るり子が「もう帰りましょう」と声をかけたので、真三は我に返って東屋の椅子から離れた。

結局、人吉では全行程四・五kmを徒歩で歩き、帰りはヤマセミで帰った。

帰りの道中、三十年前の真三百身の結婚式を振り返った。その頃は大阪にいた。結納金と称して十万円を喫茶店で渡した。それを九十六歳まで生きたるり子の母親が何一つ文句を言わずに自宅の神棚に祀って飾ったと聞いたとき、涙がこぼれそうになった。

「いまどき、こんな優しいひとがいるのか」と胸が熱くなった。当時でも一般のサラリーマン家庭で結納金は百～三百万と言われていた。「まさか、るり子が母親に渡すと思っていなかったので、穴があったら入りたかった」と後悔した。

結婚式は近くの神社でウエディングドレスを着て、カメラマンは親父であった。式を終えたら、タクシーに分乗して大阪市内のステンドグラスで飾られた大正ロマン風の喫茶店を借り切って家族、一部の親友、会社の上司、媒酌人夫妻の総勢三十名程度の小宴で済ませた。それでもなにか趣向をこらそうと、弟が宴会中は「おてもやん」と「河内音頭」のLPを流して盛り上げた記憶が残っている。

地方熊本と都会の大阪の組み合わせペアーに、人生の途中、さざいな波風は立ったが、いまは子どもも独立、東京へ去った。真三の両親も逝った。ただ熊本の女房の母親は九十三歳（九十六歳で死去）になるが、一人で暮らしている。

「胸が痛む」

女房はできるだけ実家に戻る機会を増やしているが、なにぶんにも遠すぎる。

田舎では長男が面倒をみる習わしが、都会よりも強い。女房の実家もそういうだんどりでいたが、おばあちゃんは熊本市内の長男夫婦の家から抜け出し荒尾の自宅に戻った。家の周囲はみかんや、梅、梨畑の小高い丘である。夜は森閑としている。時折、夜陰に紛れて犬の遠吠えが聞こえるぐらい。寂しさを心の底へしまいこんでいる風に見える。毎日、近所のタロウと名付けられた雑種犬がおばあちゃんに会いにくる。おばあちゃんは亡くなったおじいちゃんに会っているようだとかわいがった。

老後の問題は熊本でも大阪でも同じだ。真三のお袋も夫が逝ったあと、誰とも同居しないと宣言して倒れるまで一人で踏ん張った。その姿はこれからのわが身を見る思いで真三は苦悩するのだった。

一人息子が結婚した。相手の女性は福岡・小倉の出身で、東京で知り合った。二人には関西とか、九州だからという意識はない。息子の半分は九州の血脈だからかもしれない。

「そんなこと考えたことないよ」

問うたことはないが、そんな返答があるような予感がする。

真三は熊本との差異があったとしても人生の終わりまで「マグマおごじょ」が爆発しないことを願いたい」と念じた。

この年齢になると、二泊三日の旅でも疲れが出る。それでも次の旅を夢見て帰路に着いた。

―後日、N君のお父さんからいただいたはがきに「善さんにも最後まで田舎の披露宴を楽しんでいただきたかった」とあった。

本来の地域社会を見た気がしてうれしくなった。

またルーティンな変化のない生活が始まった。時折、近くの河原まで散歩するだけで、家ではテレビを見たり、CDで好きな音楽を聴きながら暇つぶししているだけである。写真撮影もめっきり出かける回数が減った。

そんな暇をもて遊んでいるところに前島が「久しぶりにかっぱに行きませんか」という誘いの電話が入った。

「先週、九州から帰りました」

「そうですか。お疲れでしょうね」

「いや、来週ならいいですよ」

「ではママに予約を入れておきます」

「よろしくお願いします。」

るり子が「誰からの電話だったの？」と、台所から声をかけた。

「前島さんからだよ。来週、かっぱで飲み会をすることにした」

「そうですか。疲れていないのですか」

「来週には回復するよ」

真三はこれから先、そう何回もかっぱに行けないだろうから、今回はゆっくり話したいと願っている。

るり子は「前の引っ越しで持ちものを相当片づけましたが、真三さんの若い時からの本や書き物が残っていますよ」と、思い切った断捨離を断行する気でいる。

「そうだな。息子に引き継ぐものもないから捨ててもいいだろうな」

「これ、学生時代に書かれた小説ではないのですか？」

「そうだな。俺も親父のように物書きになろうと思ったことがあった。理系出身で文学の素養がないので、あきらめたが、それでもこれだけは記録に残したいと思って書き残したのだ」

それは京都で出会ったある男の半生に基づくものであった。真三は籐椅子にかけながらその昔、書き残したほこりをかぶった原稿を読み始めた。

―『地獄志願の男』というテーマであった。

我が身につまされる歌舞伎の千代の萩の政岡役―

新聞記者の柳原慎（やなぎはらしん）はだんだんと思案顔に変わる。

「あの男は、きっと殺（やっ）られる」

柳原は舞台で女形（おやま）を演じるその男を見つめながら呟（つぶや）いていた。（京都という土地には、他人（ひとびと）には見えない網、インビジブル・ネットワークが張られているようだ。観光で訪れるとか、ただ通過するだけの人には気が付きにくいのだが…）

柳原は南座の二階のマス席に座って、先ほどから落ち着かない様子である。舞台で演じている男から招待されていた。十二月二六日は恒例の京都素人顔見世である。年の瀬ともなると、日本中どこもあわただしくなる。ところが、京の町だけはちょっと違う。あわただしさの中にも心の余裕（ゆとり）のようなものが感じられる。南座で十二月の歌舞伎興行を顔見世と名付けている。戦争中も途切れず、八〇年（当時）を超える歴史をもつ。京の人は南座の正面に白木に役者の名前を書いた「まねき」看板が掲げられると、ウキウキしてくるという。京の人の顔見世に対する思い入れは相当なものである。この日のために和服を新調する婦人連も結構多いという。彼女らの顔見世ではないのかと、祇園のクラブのママから、そんな話を聞いた柳原はおかしくなった。

顔見世は二五日が最終日である。一月の東京興行に間に合うよう大道具、鬘（かつら）、衣裳を急いで荷造りしてトラック便で送る。それを一日だけ遅らせてもらって、京の人自身が道具一式借り受け、演じるのが素人顔見世だ。こちらの方の席料も本物の顔見世に劣らないほど高い。柳原のいる定員六人のマス席が四万八千円もした。シブチンと言われる京都人も祭りとか歌舞伎にはカネを惜しまない。東京や大阪からやってくる企業の支店長は、はじめのうち、その寄付の多いことに驚くのである。

舞台は『伽羅先代萩』（めいぼくせんだいはぎ）は、伊達騒動を題材とした人形浄瑠璃および歌舞伎の演目。その一幕であった・御殿・床下の場である。柳原は歌舞伎を観るのは、これが初めて。地元紙の社会部記者で途中入社組である。素人歌舞伎は柳原のいる新聞社が主催していたが、これまで興味もなかったし、仕事で観る機会もなかった。

私の出会った作品(45)

杉本武之

(四十五)日本映画(その6)

◎山田洋次監督

日本映画の歴史の中で最も人々から愛された作品はシリーズ『男はつらいよ』です。

1969年の第1作『男はつらいよ』から始まり、1995年の『男はつらいよ・寅次郎紅の花』まで、26年間、盆と正月の公開に合わせて中断することなく作り続けられました。最後の作品が完成した7ヶ月後に、主人公・車寅次郎役の渥美清が死亡しました。彼の死と共に、全国民に愛され続けたシリーズ『男はつらいよ』は終幕を迎えました。全部で48作。世界の映画史上最も長く続いた同一監督・同一主演者の映画としてギネス・ブックにも載りました。

山田洋次監督は、『男はつらいよ』を年に2作品、腕の良い職人のようにきちんと作り上げるだけでなく、その間に、自分の撮りたい映画も作りました。全てが秀作です。『家族』『故郷』『同胞』『幸福の黄色いハンカチ』『遥かなる山の呼び声』『学校』。

中でも高倉健主演の『幸福の黄色いハンカチ』(1977年)は傑作です。数多くの黄色いハンカチが青空に鯉幟のように翻るラストシーンは本当に感動的です。

―山田洋次は、昭和6年(1931)9月13日、大阪で生まれた。父親が技師として満州鉄道に勤めていた関係で、洋次は3歳の時に日本を離れて満州国に渡った。奉天(現・瀋陽)、ハルピン、新京(現・長春)、大連と、満州国内を転々とした。小学4年の時に父親が東京支店に転勤したので、東京に住むようになった。都立八中に入学するが、再び大連に渡り、大連二中に入学した。

敗戦。自宅が八路軍に接収され、日本に引き揚げるまでの1年半は苦しい生活を送った。ようやく日本に帰って来て、山口県宇部の親戚の家の納屋みたいなところで暮らした。宇部中学に入学した。日本の田舎の生活習慣に馴染めなかった。引揚者としての気後れで、友だちも出来ず、塞いだ卑屈な気分で中学生活を送った。教室では誰とも口をきかなかった。そのうちに、両親が離婚した。彼は、ひたすら勉強に打ち込んだ。そして、旧制山口高校に進学した。

『男はつらいよ』

昭和25年(1950)、東京大学法学部に入学した。大学受験の費用は親戚がバックアップしてくれた。浪人中、彼は行商して生活費を稼いでいた。昭和29年、松竹に入社した時、まず実感したのは撮影所で出る食事のありがたさであった。

「朝、昼、晩、食堂に行くと、山盛りのご飯があって、食べる心配がないという喜びは大変なものだった」

学生時代に映画サークルに入っていた。内向的な自分の性格を変えたいためだった。官僚にならずに、映画会社を志望したのも、引きこもりがちな自分を内側から開放して無理矢理にでも外に押し出して生きたいと考えたからであった。

東大法学部を卒業すると、松竹大船撮影所の助監督部に入社した。1年先に篠田正浩、同期に大島渚、1年後に吉田喜重と石堂淑朗など、後に「松竹ヌーベルバーグ」を形成する人々がいた。彼らの前衛的な動きには同調せず、山田は地道な大衆路線を進んだ。第1回作品は喜劇の『二階の他人』。第2作は倍賞千恵子主演の『下町の太陽』であった。続いてハナ肇主演の『馬鹿まるだし』を作った。この『馬鹿まるだし』と2年後の『なつかしい風来坊』が、『男はつらいよ』以前の山田の初期の代表作だと言われている。

◎『男はつらいよ』

映画『男はつらいよ』は昭和44年(1969)12月に一般公開されました。作品そのものも良く出来ており、興行成績も良かったので、直ちにシリーズ化されることになりました。どの作品もヒットして、とうとう48作品も続いて作られるようになりました。

よく知られているように、『男はつらいよ』は、もともとテレビシリーズとして企画され、1968年10月から翌年3月までフジテレビ系列で放映されました。フジテレビが山田洋次に「渥美清の主演で、愚かな兄と賢い妹のシナリオを書いて欲しい」と依頼したのでした。山田と渥美が会って話し合いました。渥美は、若い頃に付き合っていたテキヤの話を面白おかしく喋りました。その話からヒントを得て、山田はフーテンの車寅次郎と賢明な妹のさくらの物語を作り上げました。脚本だけで、演出はしませんでした。

このテレビドラマは、視聴率が特に高かったわけではありませんが、最終回で寅次郎が旅先の島でハブに噛まれて死ぬと、寅次郎を死なせるのは可哀想だというファンの抗議がテレビ局に殺到しました。それを知った山田は、ファンの要望に応えるために、劇場用映画の企画として松竹に提出しました。会社は渋々と受け入れました。

しかし、『男はつらいよ』が封切られると、観客動員数は56万人を数えました。会社は直ちにシリーズ化することにしました。その後の作品も人気が続き、第8作『寅次郎恋歌』で動員数100万人を超えました。そして、第10作『寅次郎夢枕』で200万人を突破しました。シリーズの最大動員数は第12作『私の寅さん』の242万人です。

偉大な映画監督・黒澤明は次のように山田洋次を称えています。「山田君にも言ったんだ、何が尊敬出来るって、『寅さん』のシリーズをあれだけ撮り続けることだよって。出てくる人の一人一人の性格をちゃんと書き込めているから出来ることなんだろうね」

私は、シリーズ『男はつらいよ』の大半を観ています。好きな作品を挙げます。(　)はマドンナ役の女優です。

第1作『男はつらいよ』(光本幸子)、第5作『望郷篇』(長山藍子)、第12作『私の寅さん』(岸恵子)、第17作『寅次郎夕焼け小焼け』(太地喜和子)、第25作『寅次郎ハイビスカスの花』(浅丘ルリ子)、第27作『浪花の恋の寅次郎』(松坂慶子)。

第1作『男はつらいよ』の内容はこうです。

―20年ぶりに故郷の葛飾柴又へ帰ってきたテキヤの車寅次郎(渥美清)は、長く別れていた妹のさくら(倍賞千恵子)と再会する。さくらの見合いに出席して、粗暴な言動によって座を白けさせ、縁談を破談にしてしまう。旅に出た寅さんは、奈良で、お寺巡りをしていた柴又帝釈天の御前様(笠智衆)と娘の冬子(光本幸子)に出会う。冬子に一目惚れして、二人に従って柴又へ戻って来る。世話になっている叔父(森川信)の団子屋の裏の印刷屋の工員・諏訪博(前田吟)がさくらにプロポーズする。寅さんは反対するが、結局二人は結婚する。一方、寺のお嬢さん・冬子に対する寅さんの想いは増していく。寅さんは、釣り道具を持って、江戸川で釣りをすることを約束していた冬子を誘いにお寺に赴く。縁先で、冬子が品の良い紳士と話している。冬子(寅に気づいて)「あら…」。寅「あ、お客さんですか」。冬子「御免なさい、今日、お約束してたんだわねぇ」。寅「いえ、いいんです、いいんです」。相手は冬子の婚約者だった。傷心の寅さんは旅に出る。

かくして、寅さんは失恋し、その後も失恋し続けることになります。

〈杉本武之プロフィール〉
1939年　碧南市に生まれる。
京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。
〈趣味〉読書と競馬

この指(ゆび)とまれ(288)

氏原朝信

昭和54年度　常滑小学校六年三組
卒業記念号「なかま」(一九八〇・三・一九)

これまで学習したり遊んだりして興味や関心のあったことを一人一ページにまとめてみました。紙面の都合上、研究テーマと氏名のみとします。

つりのこつ　太田年紀
アユづり　清幸幸作
セミの一生と体と種類　杉江伸二
ゲームのやり方　伊藤正悟
ねん土の種類と色ねん土　鯉江春聡
つりぼりのかんたんなタイのつり方　吉川峰夫
火の歴史　田中新二
トランプあそび　稲葉光俊
しおについて　福田由成
プラネタリウムの仕組み　沢田真幸
ピストル　神谷俊範
サボテン　伊藤利夫
カタツムリ　太田幹也
サボテン　井上一大
しお(塩)　田中秀穂
けんか　斉藤昭男
飛行機の話　渡辺輝昭
昆虫なんでもいちばん　竹内教浩
こん虫の一生　稲留忠和
とんぼの一生と種類　木見尻孝
海づりのえさと場所　新美健一
常滑市のあゆみ　杉江和美
衣服の話　山口亜裕美
星のメルヘン　若松美奈子
道路の発達　松下祐子
古墳とピラミッド　村田明子
上品・下品・おばんくさい方言　中川恵子
大旅行家マルコ・ポーロ　山本智子
刀の種類や武士のみなり　宇藤彰恵
生活の中に生きることわざ　日比野愛
木のやくだち　大林奈津子
車のはなし　八木伸代
太陽・雨雲・風・永の役割とその反対　浜田和江
犬について　石川知子
AM民放…私はラジオ　滝田恵子
パトカーの歴史　杉江千秋
むかしのあそび　伊藤法江
鏡の歴史　水上優子
鳥について　青木美保子
みんな使っているボール　椿原恵子
正月の七草がゆ　三浦由美子
テレビの歴史　松下亜紀

編集委員の松裕、青美、椿恵、宇彰、斉昭、杉千、鯉春、山智たちが中心になって一七〇ページもの卒業文集を作り上げました。また、彼らの提案に対して各班員が協力し合って作り上げた卒業文集**「なかま」**になりました。

昭和54年度卒業生**三四七名**(男子一六六名・女子一八一名)は**「常滑市立常滑小学校」最後の卒業生**であったことを記しておきます。

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

簡単! なめらか牛乳プリン

卵を使わない口どけのよいプリン。とっても簡単なので、ホワイトデーのお返しにもぴったりですョ♡

材料

【70ccのプリン容器×4個分】
Ⓐ(牛乳…200cc　生クリーム…60cc　砂糖…30g)
Ⓑ(ゼラチン…5g　水…30cc)
→水の中にゼラチンをふり入れ、かき混ぜふやかしておく
Ⓒラム酒…小さじ1/2　バニラオイルorバニラエッセンス…適量

作り方

① 鍋にⒶを入れ火にかけ、沸騰直前で火を止める。
② ①をゴムベラで8回ほどかき混ぜてからⒷを加え溶かす。
③ ②にⒸを加え混ぜ、プリン容器に注ぐ。
④ ③を冷蔵庫に入れ、1時間以上冷やし固める。
⑤ いちごやミントの葉を添えて、出来上がり!!

いべんと

◎常滑市民文化会館
ホール
▼Family Kids Dance 15th "The Party"・十五日(日)　開場　午後一時　開演　同一時半(～午後五時)　入場無料・整理券有り)　問合せ　ファミリキッズダンス　☎080-1307-7121(桑内)
▼特撰落語名人会・二十日(金・祝)　開場　午後一時半　開演　同二時(～午後四時)　入場料　四千円　問合せ　常滑市民文化会館　☎35-3111
▼第14回ユリノ・スクール・オブ・アメリカン・バレエ　パフォーマンス・二十二日(日)　開場　午後五時　開演　同五時半(～午後七時半)　入場無料　問合せ　ユリノ・スクール・オブ・アメリカン・バレエ　☎42-2243
▼常滑高校吹奏楽部　第5回定期演奏会・二十五日(水)　開場　午後一時半　開演　同二時(～午後四時)　入場無料　問合せ　愛知県立常滑高等学校　☎43-1151(高木)

◎常滑市民文化会館
展示室
あなたのギャラリー
▼水彩画展示・一日(日)～五日(木)　午前九時～午後九時　※最終日は午後五時まで　あなたのギャラリー　問合せ　中美会　☎34-3197(永田)
▼明墨会作品展・七日(土)～十四日(土)　午前九時～午後九時　※初日は正午～　最終日は午後二時まで　あなたのギャラリー　問合せ　明墨会　☎43-3845(江口)
▼常滑地区伝統文化　いけばな親子教室・十四日(土)　午前九時半～同十一時　第一展示室　問合せ　常滑地区伝統文化いけばな親子教室　☎052-321-8985(伊藤)
▼第33回子ども美術展・十七日(火)～二十九日(日)　午前九時～午後五時　※最終日は午後三時まで　あなたのギャラリー　問合せ　常滑市文化協会　☎35-2920
▼「人権を理解する作品コンクール」入賞作品の展示・二十四日(火)～二十八日(土)　午前九時～午後五時　※初日は午後一時～最終日は午後四時まで　第二展示室　問合せ　市民窓口課　☎47-6102

◎常滑市立図書館
▼虹彩会油絵展(油彩画)・一日(日)～十一日(水)
▼常滑高等学校教職員展(絵画、陶芸、クラフト、書等)・十二日(木)～二十一日(土)
▼常滑水彩画会展(水彩画)・二十二日(日)～二十九日(日)

◎とこなめ陶の森研究所
▼企画展「常滑陶芸作家協会展」・～四月十九日(日)

◎常滑市体育館
▼常滑カップジュニアバスケットボール大会・一日(日)
▼第86回愛知県高等学校卓球

少人数での家族葬専用ホール
大阪屋リビング 常滑
誠意を込めて安心のお手伝い
大阪屋葬祭
常滑ホール　鬼崎ホール　阿久比ホール
年中無休　24時間体制　TEL0569-35-4949(代表)
●わーくりぃ知多協力店
●自治労常滑市職員労働組合協力店
大阪屋葬祭　検索

知多の新鮮たまご
発酵ケイフン
(有)知多エッグ
知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341

美の回廊 Vol.43

水野 伊津子　「スコットランドスケッチ旅行」

スターリングの4泊を終えて、次の目的地、東のファイフ王国へ向かいます。
（ローマ支配時代ピクト人が住んでいた王国で今でもファイフ王国と呼ばれています）
旅を計画するとき、最低でもスケッチ20枚くらいの目標をたてます。移動日を除いて一日2枚という感じです。同じような街並み、同じような構図だと描いている方も飽きてくるので、なるべく全く違った場所を設定するようにしています。

まさしくファイフ王国の村は、西ヨーロッパ、オランダやベルギーと独自に貿易で栄えた明るい色調で別の国に来たようでした。スターリングの近辺がビクトリア朝の建物が多かったのに対して、東海岸の漁村はオランダの屋根が階段状のカナルハウス風になっていて明るいオレンジ色の屋根にパステルトーンとレンガの壁のコントラストが美しい村（写真①）になっています。

雨と霧の中で…
スコットランドは雨の多いところと聞いていたのに奇跡的に着いてから連続5日晴れ。ところがファイフ王国に入ったとたん、雨、霧、曇り、風、これにはまいりました。絵描きは絵が描けなかったら、何するの？寝るしかない。

夏には朝6時からスケッチする師匠も9月だと7時にならないと夜が明けない。10時まで霧が出ちゃって（写真③）真っ白、雨の隙間を縫って絵を描くのですが、風が強くて体感気温は12度くらいでした。天気予報とにらめっこしながら、一日中雨の日は城めぐり、観光。せっかく行っても霧と雨の中の撮影でした。

石造りの家は…
この村で滞在したのはかつての領主の城を5軒の貸別荘にリノベーションされたものでした。歴史ある建物での滞在は、この家だけでも絵になるし、高台からは村が一望でき快適です。貸別荘を借りるのは新しい家よりこういった歴史ある家の方が心に残ります。ただ一つ石造りの家は、階段も床も大変響きます。私たちは一か所に７日間ですから我慢しますが、階下の誰かが帰ってきたとか音楽がうるさいとか、犬が歩く足音が上から響くとか昔の人はこれを我慢してたんだろうか？と疑問に思います。

意外と小さかったスコットランド人
雨の中、ダノッター城へ向けて出発し2時間かけてアバディーン地方に到着すると、奇跡的に私たちが取材をする間だけ雨が上がり、明るくなりました。急いで幻想的な写真を収めることができました。メルギヴァー城（写真④）へまわり、場内見学（英語）しました。外から見て大きな城だと思っていたのですが４階建ての階段は人一人がやっと通れるほど、天井も低くベッドも小さく昔のスコットランド人は小さかったんだと感じました。

果てなく続く深い森…
レンタカーでの旅はグーグルマップが大活躍です。精度もあがってきちんと迷わず連れて行ってくれます。イギリスは信号がほとんどないとお話したんですが、そのせいで到着までの時間が10分と出ていても距離は結構あります。曲がりくねった森林の中をまだかまだかと走り、交差点に出てもまた同じような道でナビがなかったら全くたどり着けないような場所でした。

ファイフ王国の7日間を終え、いよいよ最終目的地エジンバラに向けて出発です。途中でダヴィンチ・コードで有名なロスリン教会（写真⑤）にも立ち寄りました。「あと10分で結婚式が始まりまーす。どうされますか？」「えーっそんな！終わるのは何時ですか？」「3時間後です」残念だが仕方ない、おめでたいことなので「コングラチュレイション」と言って外観のみ撮って立ち去りました。エジンバラのアパートに荷物を置いた後空港へレンタカーを返却し、あと４日間はエジンバラをトラムやバスや歩きで回ります。

話はちょっと脱線します。スコットランドは幽霊や魔女や妖精の伝説の宝庫です。この国を旅していると、深い霧に覆われた森、閉ざされた古城に暗い牢獄、湖のほとりの小屋なんていうシチュエーションはくさるほどお目にかかります。たくさんの映画やドラマのロケ地としても有名です。なるほどこんな場所で生まれ育ったら全く霊感のない私でもひょっとするといるかもなあなんて考えます。エジンバラには、そういった幽霊が出る場所を見て回るゴーストツアーとか地下の迷路をまわるダンジョンツアーも人気だそうですよ。

エジンバラ編につづく

① クレイル漁村

② 領主の館

③ 霧の朝

④ メルギヴァー城

⑤ ロスリン協会

日々是好日

「この目で見たんだから、絶対に間違いない！」

「この目で見たんだから、絶対に間違いない！」というセリフ、ドラマだけでなく、日常でもたまに聞く。

中日新聞・電子版で公開されているものが目に留まった。早速作ってみた（写真）。鏡に映っただけでこうも違って見えるのか…、超感動した。

ずいぶん前になるが糸川英夫博士の公演が武豊町中央公民館であった。糸川博士はロケット開発で武豊と縁が深く、そして名戦闘機『隼』の開発者でもある。

【写真】トイレットペーパーの芯の切り口が全く違って見える。

現場の兵士「戦闘機の馬力をもっと上げて欲しい」
博士「なぜ？」
兵士「敵の攻撃から逃れるため」
博士「だったら、急旋回が得意な機体にしたら良いのでは」

という思考の流れで『隼』ができたそうである。

兵士の要望を叶えるため、全く違った角度からその本質を見抜くというその姿勢にとても感動した。

博士は、…聖書を読むんだったらソロモンの歌から、ともおっしゃったが、私は毎回眠りに。その聖書というもの、詳しい人に尋ねたら「一つの事柄について、何人かの違った角度からの見聞きが集められて記述されている、だから正しいです」、ということ…らしい。

一方、TVのワイドショーの時間、リモコンをピコピコしてると、同じトピックが、なんとその順番のみならず切り口まで同じだったりで、その画一性に驚く。

新聞記事を読み進めるとき、一つの記事にいろんな角度に立った『何人かの私』の声がビンビンと頭の中に響く。なので、新聞読むの結構～キツイ(笑)。

今日この頃です。

伊藤　明徳

応募

日々の生活の中でチョットしたこんな事・あんな事・心和む事、面白いエピソード等この欄へどしどし応募してください。
（原稿用紙2枚程度）

応募先：あかい新聞 武豊店（郵送またはFAXにて）
住　所：知多郡武豊町字金下37番地
ＴＥＬ：0569-72-0356
ＦＡＸ：0569-72-6002

僕の思ってること

僕は今、あることに挑戦しマいる。それが何かは、内緒だ。僕がそれに挑戦するには、たくさんの努力が必要だと思う。なぜなら、おじいちゃんもおばあちゃんもパパもいとこも、その資格を持ってマいないからだ。見事合格したので、まずは一安心だ。そして、次に向けて頑張る予定なのだ。そんな頑張ってマいる僕に今日はご褒美。夜のごはんはデザート付きで回転寿司に行ったよ。タッチパネルの使い方を覚えた僕は頼まれマもいない、みんなの注文を聞いマタッチパネルで注文。我ながら頼もしい？と、僕はニタニタしマる。きっと、おじいちゃんとおばあちゃんは僕のことを頼もしくなったなぁ…と、思ってマいると思う。そして、僕が注文しマあげたお寿司を美味しそうに食べマいる。兄は一人、自分の食べたいものを注文しマいる。見マいると、面白いことを発見したのだ。軍艦巻ばかり食べマいるおばあちゃんと、お寿司はにぎりだよ！と言ってマ、にぎりばかり食べマいる兄がいることに気づいた。そして、回転寿司に来マ、うどんを食べマいる人がいるのだ。お寿司を食べればいいのに…と、思ってマしまう。まぁ、ごはんは気持ち良く、美味しく食べることが一番だから、好きなものを食べればいいんだけどね。

ごはんをたくさん食べたあとは、一番のご褒美でもあるデザートだ。僕の大好きなチョコのアイスクリームをおねだり。こういう時は、おじいちゃんにおねだりするのだ。おじいちゃんは僕には、すごく優しいのだ。おかげで、デザートも満足に食べれマ、本当に幸せな食事だったよぁ。

うちに帰ったらダッシュでお風呂に入ってマ、おやすみの時間さ。明日はサッカーの試合さ。僕はサッカーが上手だよ。いつもゴールを決めマいる。自分でもカッコいいなぁーと思うけれど、みんなは笑ってマる。まぁ、サッカーを楽しんでやればいいと思ってマいるから、僕はサッカーを楽しんでいるよ。何でも楽しまなきゃぁ、損だよねぇと、僕は思ってマいる。楽しいことをたくさん見つけよう！その方がずっーと楽しく、みんなが笑顔になるよ。きっと(L)

若竹俳壇

作品募集　毎月十日までに葉書で　発行所へ

ものの音雲の形に春きざす　吉田ひろし
立春や人は言葉に力得て　加藤　久子
帰り来し猫の背中に時雨知る　谷川と志江
良き日差し舟の形見の雛(ひな)かな　塚本　千鶴
どけしや夫のあくびが移りたり　関　里美
勝気の娘バレンタインの日の迷ひ　蟹江　永了
寒稽古小さき指先赤くして　長坂みつゑ
去年今年百年旅の一里塚　池田ユタカ
東風吹いて笑いころげる乙女かな　細井かね子
坂道の溝に華やぐ落ち椿　多田　昭子
屋台出て賑わいに沸く梅祭　杉江　民子
宮の杜静けさ破る恋の猫　平野　紀江
菜の花や幹線沿いにたくましく　磯村美耶子
寒空に救急車来て耳すます　村井みさを
山茶花散るひたすらという花ことば　中尾　節也
ものの ふの和歌にあはれや実朝忌　古川　義高
豆撒きや愛犬はしゃぎひろい喰い　古川三恵子
立春や同窓会を立ち上げり　久田　笙子
防波堤飲み込んでいく冬の波　山下みどり
丘超える吟詠ほのか冬至梅　竹内三千彦
蝋梅の早い便りに香を感ず　清水ドラ吉
年の豆掌に受け余る齢かな　江端　久恵
夫の世辞真にうけ作る恵方巻　中村　照代
初詣でチャリンチャリンと小銭鳴る　石原　那奈子
ぽつぽつと灯残る冬の朝　竹内　一穂
十五ますノートに写経睦月かな　浦崎　ひとみ
大根葉一夜塩漬菜飯かな　杉江　タエ
巾着の軽ろき中身や二月来る　桑山　撫子
早梅や散策道に太鼓の音　林　京子
自由とは孤独のことか春よ来い　日比　道生
山笑うシルバーカレッジ願書出す　山中　艶子
会場に室の花咲くフラワーショー　竹内　博子
ウィルスにも生きる術あり流行風邪(はやりかぜ)　服部　窯平
皆マスクに不安なり　竹内　佳香
軍手にも息吹きかける夜寒かな　田上　義則
雑炊に卵おとして一人の夜　村井　範子
春待ちて地にへばりつくいぬふぐり　中村　洋子

リーグ・十四日(土)
▼春季中学生バレーボール教室・二十日(金・祝)
▼尾東地区卓球普及大会・二十一日(土)
▼第37回愛空塾空手道競技大会・二十二日(日)
▼第80回西日本医歯薬卓球大会・二十六日(木)～二十九日(日)

◎知多市こども未来館
▼工作「フォトスタンド」・一日(日)～三十一日(火)　午前九時～午後四時半　内容　王冠（瓶ビールのふた）に色々な布切れを貼って、周囲に飾りつけたフォトスタンドを作ります。百五十円／個
▼工作「イースターのかざり」・一日(日)～三十一日(火)　午前九時～午後四時半　内容　ダンボール紙、色画用紙、水引き、染めた軍手などを使って、イースターの飾りを作ります。百五十円／個
▼工作「パタパタづくり」・二日(日)～三十一日(火)　午前九時～午後四時半　内容　板のもち手を回すと絵が変わるパタパタを作ります。百円／個
▼工作「おくりものスイーツ」・①一日(日)～十四日(土)「ホワイトデーのおくりものスイーツ」②十五日(日)～三十一日(火)「おくりものスイーツ」　午前九時～午後四時半　内容　プラ容器・リボン・造花などを利用してプレゼント用のスイーツを作ります。百二十円／個

◎ギャラリーCera（常滑市観光プラザ内）
▼桜花と春の森のなかで　武知かづか・六日(金)～十六日(月)　午前九時～午後五時半　無料
▼ぬのといろ展　鯉江あかね・二十日(金・祝)～三十日(月)　午前九時～午後五時半　無料

◎ギャラリーとこなめ（常滑市陶磁器会館内）
▼無想庵　散歩道を着物で散策＆古布販売・一日(日)　午前九時～午後四時半　有料
▼無想庵　散歩道を着物で散策＆古布販売・七日(土)～八日(日)　午前九時～午後四時　有料
▼笑福猫舎・十二日(木)～二十四日(火)　午前九時～午後五時　無料
▼無想庵　散歩道を着物で散策＆古布販売・二十八日(土)～二十九日(日)　午前九時～午後四時　有料

◎小ギャラリーとこなめ（常滑市陶磁器会館内）
▼無想庵　散歩道を着物で散策＆古布販売・一日(日)　午前九時～午後四時　有料
▼乙田窯・五日(木)～十日(火)　午前九時～午後五時　無料
▼青木一童・十二日(木)～二十四日(火)　午前九時～午後五時　無料
▼無想庵　散歩道を着物で散策＆古布販売・二十八日(土)～二十九日(日)　午前九時～午後四時　有料

◎常滑屋
▼「ヴィンテージとレトロなバッグ展」アトリエ沙羅・～十五日(日)　どこか懐かしくて、ほっとするノスタルジックなヴィンテージバッグ。今のファッションにプラスワンのアイテムです。見ても楽しい展示です!!
▼「宗像敏男・健児親子展」アトリエムナカタ・十七日(火)～二十二日(日)　絵は音楽さ！がモットーの二人。二〇一九年滞仏油彩作品とダウン症アーティスト健児31才の刀版画作品の展示販売です。
▼「暮らしに役立つ骨董展」夢創庫・三十一日(火)～四月十二日(日)　今でも使える骨董の器や茶道具・現代作家の作品等、掘り出し物を見つけにお越しください。

◎方円館
▼だいすきなやきもの展・～四日(水)
▼武山宗憲　ご縁展・六日(金)～十八日(水)
▼陶房杉　杉江匠・林田未来展・二十日(金・祝)～四月十五日(水)

◎武豊町立図書館
▼墨彩展（彩光会）・～十二日(木)
▼本との縁結び・一日(日)～三十一日(火)
▼宝石せっけんを作ろう・十四日(土)　午後二時～同三時　定員　十組二十名（申込み順）　対象　保育園から小学生までの親子　※五、六年生は一人で参加可能
▼えほんのせかいで「はいっちーず★」かがくいひろしの「だるまさんが」の世界で一緒に写真を撮りましょう！・二十二日(日)　午前十一時～正午　定員　七家族（0～二才のお子さんがいる家族）　申込み順

◎武豊町中央公民館
▼パソコン広場・五、十二、十九、二十六日各(木)　午後一時半～同四時半　問合せ　NPO知多ネット　☎090-8422-4251（鈴木）
▼第三十四回武豊町福祉まつり・八日(日)
▼花粉症に効く料理をつくる教室・二十六日(木)　午前十時～午後一時　定員十六名（申込み順）　料金千二百五十円（材料費込）

◎武豊町民会館
ゆめたろうプラザ
▼Swing Band TAKETOYO第二十五回定期公演「FUNFAMFUN」・八日(日)　開演　午後二時　料金五百円　演奏曲「Fun time」ほか

◎武豊町総合体育館
▼春季町民卓球大会・八日(日)
▼第八回カローリングカップ・十四日(土)

◎長尾児童館
▼防災について学ぼう・十五日(日)　午前十時半～同十一時半
▼親子クラブを体験しよう・十三日(金)　午前十時半～同十一時半
▼劇をみよう「どろぼう学校」・二十八日(土)　午後二時～
▼わんぱくクラブ・五日(木)　午前十一時～同十一時半

◎くすのき児童館
▼親子クラブを体験しよう・十三日(金)　午前十時半～同十一時半
▼劇をみよう「どろぼう学校」・二十九日(日)　午後二時～同三時
▼わんぱくクラブ・五日(木)　午前十一時～同十一時半

◎おおあし児童館
▼遊びの日～お姉さんと遊ぼう～・一日(日)　午後二時～同三時
▼将棋で遊ぼう・十五日(日)　午後一時半～同三時　☆将棋で遊ぼうボランティア募集中
▼わんぱくクラブ・五日(木)　午前十一時～同十一時半
▼親子クラブを体験しよう・十三日(金)　午前十時半～同十一時半

◎富貴児童館
▼劇をみよう「どろぼう学校」・十五日(日)　午後二時～同三時
▼親子クラブを体験しよう・十七日(火)　午前十時半～同十一時半
▼大道芸を見よう「ジャグリングごっこYu&kel」・二十五日(水)　午後一時半～同三時
▼けん玉認定会（準初段以下）・一日、八日、十五日各(日)・七日、十四日、二十八日各(土)・二十四日、三十一日各(火)、二十六日(木)・二十七日(金)　各午後二時～同三時　※各児童館全イベント申込み不要

◎半田空の科学館
▼自動運転で動く車のしくみWS・一日(日)　午後一時～同四時　定員　十名（小学四年生以上　親子での参加OK）　参加費　五百円
▼星見会・宵の明星を見よう！・二十一日(土)　午後七時～同八時半　定員　六十名　参加費　大人三百円　小人　二百円（要予約）
▼星見会プレミアム　自分で望遠鏡の操作、天体の導入を体験・二十八日(土)　午後七時～同八時半　定員四組（二～六名のグループ、家族）　参加費　一組千八十円

わが家のニューフェイス

杉浦悠月（1才4ヶ月）　千葉県松戸市

私は杉浦悠月。特技はスーパーハイハイ。活発はーオのせの子です。パパとママがお仕事がんばる日は、ときどき半田のパパとお留守番。でもこの前朝起きたらもうパパもママもいなくて、私は大泣きしたの。お風まんでハンガーストライキで抗議もしたんだけど、パパの見せたおせんべいについ手が出てしまい、結局笑顔でごはんも食べた私よ。

写真・文　杉浦弥生

愛とMy Family

寺本連（5才）　琳（2才）　常滑市

ちゃんよりもパワフルで強く、いつも元気な寺本琳です。言葉を覚える琳のも早く一人前に話せる琳ちゃん。お兄ちゃんが、これからどれでも大きくなって成長していくのが、と琳ちゃんのものすごく優しく、おせっかいな琳ちゃんつも勝ちゃうも琳だけで、本当はらしく元気いっぱい。パワフルな琳ちゃんでも楽しみです。これからも、琳ちゃんで成長していってね。

写真・文　寺本仁美

あかい新聞店で私たちと一緒に働きませんか？

自分のペースで楽しくながく働けます！

勤務日数　週2日～OK

パート・アルバイト募集中

地域のご家庭・お店・会社に新聞を届ける仕事です。

短期OK!　副業OK!　未経験者歓迎　高齢者歓迎

※詳細は担当 赤井までお気軽にお問合せください

中日新聞 あかい新聞店　武豊 0569(72)0356　常滑 0569(35)2861

「中日春秋」で学力アップ!? 人間力もアップ!?

「中日春秋」を書き写す

これだけで全教科の学力アップの土台となります

「中日春秋」の書き写しは学力アップ・人間力アップの第一歩です。

人間力アップ!!

総合的学力 …すべての教材の学力アップの土台に！

応用的学力 …問題を正確に把握する力・解答の解説を適切によみ込む力

基礎的学力 …読解力・語彙力・集中力・注意力アップ

日常的習慣 …「中日春秋」書き写し よむだけでも○！書き写せば◎！

1冊（1ヶ月分）110円（税込）

中日春秋書き写し専用ノートのお求めはあかい新聞店まで

武豊店 ☎ (0569)72-0356
常滑店 ☎ (0569)35-2861

美味しくて新鮮な地元、知多半島の生鮮食品や、自然の恵み いっぱいの、からだに優しい食材がおすすめです！

イシハラフード

ISHIHARA Quality Foods

常滑店
TEL 0569-35-5355

通常営業時間　AM9:30～PM9:00

ジェム電子水を使った手作りパン＆クッキーの店

GRANPLAN HAND MADE GOODIES ORIGINAL

パン工房グランピアン